

「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や、医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは、現時点の想定

拠点ビジョン → 基本構想 → 基本計画 → **基本設計** → 実施設計 → 建設工事 → 開院
 2022年3月 2022年11月 2023年9月 2024～2026年 2026～2030年 2030年

3 概要

(1) 対象者

県民、医療関係者等

(2) 実施内容（取組状況）

基本計画及び県立広島病院跡地活用の方向性の実現に向けて施設整備等を着実に進める。

ア 新病院開設準備委員会

第1回委員会（令和6年3月1日開催）

区分	内容
会議構成員	県立広島病院、JR 広島病院、中電病院、広島がん高精度放射線治療センター、広島大学病院、府中市、安芸太田町、広島市、広島県
主な議題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 検討体制について ○ スケジュールについて ○ 高度医療・人材育成拠点基本計画について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ おそらく新病院だけで県全体の医療課題の全てを解決するということにはならない。<u>他院との役割分担や人材育成の取組を通じて、どのように課題を解決していくのか</u>、県民や医療者に分かりやすいストーリーが大切だ。
新病院の役割	

病床数・医療機能	<ul style="list-style-type: none"> 病床数など数の議論だけでなく、<u>県のハイボリュームセンターとして求められる医療機能について</u>、今後の医療需要や人口推計も踏まえて具体化してもらいたい。
医療人材の確保育成	<ul style="list-style-type: none"> <u>高度医療という短期的な目標と、若手医師の確保という長期的な目標とを分けて整理した方が</u>、県民や医療関係者にとって分かりやすい。 新病院は、今までよりも高度急性期にシフトしていくことから、<u>医師・看護師を含め、高度急性期の医療に対応できる人材確保が重要</u>となる。
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関で受入れが困難な場合、新病院がバックアップして救急患者を受け入れる「<u>断らない救急</u>」について、<u>新病院が初期救急を含むすべての救急患者を診てくれるとの誤解や、救急患者を取られると懸念する病院もある。</u> 今後、深夜等の救急車受入れが困難となる可能性があり、新病院、広島市民病院、大学病院で夜間に受け入れ、症状が落ち着いたら後方病院へ転院させる方向が望ましい。
役割の分担と連携	<ul style="list-style-type: none"> 新病院の開院前から後方支援病院との連携ネットワークづくりに取り組んだ方が良い。大学病院等では、近隣の病院との人的交流を盛んに行うことで、患者が行き来しやすくする取組を行っているところもある。 新病院と他の基幹病院との役割分担についても具体的な検討を進める必要がある。
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> 収支計画の設定条件は他のベンチマーク病院の実績もあることから、達成可能と思われる。 病床稼働率や入院単価は、全国の急性期病院の状況からみれば高い設定ではないか。診療報酬の要件や加算も踏まえて検討することが重要である。 新病院の収支だけでなく、地域の医療機関全体の将来的な経営への影響も考慮すべきである。

イ 高度医療・人材育成拠点推進会議

第1回会議（令和6年1月26日開催）

区分	内容
会議構成員	基幹病院、各種指定医療機関、再編対象医療機関、医療関係団体、職能団体、診療科医会、圏域地对協、行政機関（95機関）
主な議題	○ 高度医療・人材育成拠点基本計画について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 全国から若手医師を惹き寄せるには、<u>良い指導医を集めることが重要</u>である。また、指導医にとって魅力ある病院であるためには、待遇面を含めた検討が必要である。 広島大学としては、全国的なリクルート活動により新たに広島県に転入される医師を含め、<u>新病院と密接に連携して医療人材を育成</u>していく。 新病院において質の高い医療を提供するためには、<u>医師以外にも様々な医療スタッフの確保が必須</u>となる。
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> 病院群輪番制をはじめとした救急医療体制の再構築に向けて、基幹病院の役割分担など、具体的な議論が進むことを期待している。

小児医療	<ul style="list-style-type: none"> レスパイトなどの医療的ケア児の受入れや急変時に後方支援する役割も重要。
役割の分担と連携	<ul style="list-style-type: none"> 平均在院日数を短縮するためには、後方支援病院の確保が重要となる。<u>新病院だけで療養が完結することではなく、後方支援病院への移行が必須。</u>現在 J R 広島病院や中電病院がその役割を一定程度担っている状況も踏まえて、今後の対応を検討する必要がある。
地域医療提供体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> 中小病院等への医師派遣や診療支援を行う上で、<u>広島大学及び広島県で設置する会議体での医師配置調整は、できる限り迅速な対応を求めたい。</u>また、地域に派遣する医師確保についてもお願いしたい。
県立広島病院の跡地活用	<ul style="list-style-type: none"> 市民生活に大きな影響があり、地域住民の要望や要請等への誠実な対応は不可欠である。<u>住民の想いに最大限配慮し、住民の理解を得ながら丁寧に進めてもらいたい。</u>

ウ 新病院セミナー

高度医療・人材育成拠点構想について、県民の理解促進及び機運醸成を図るため、医療再編や新病院に関連するテーマに基づき、大学教授等の講演やパネルディスカッションによるセミナーを開催した。

【令和6年3月20日に開催した新病院セミナーの内容】

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/koudoiryou-jinzai/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten-seminar-2.html>



(ア) 広島県からの講演

「高度医療・人材育成拠点構想の概要説明」

広島県 浅原利正参与

(イ) 基調講演

「広島県の救急医療の課題と対応策について」

広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 志馬伸朗教授

(ウ) 講演

「広島の外傷救急の現状と問題点、新病院への期待」

広島大学大学院医系科学研究科四肢外傷再建学 大饗和憲教授

「広島の新病院の現状と問題点、新病院への期待」

広島大学病院危機医療センター 西田翼特任助教

「広島の新病院の現状と問題点、新病院への期待」

県立広島病院救急科 世良俊樹主任部長

「広島の新病院の現状と問題点、新病院への期待：救急隊の視点から」

広島市消防局警防部 松永真雄救急担当部長

(エ) パネルディスカッション

「県民にとっての救急医療とは：医療従事者、行政、県民に求められること」等

【新病院に関する主な質問と回答】

主な質問	回 答
<p>新病院構想では、断らない救急を掲げているが、他の病院が受け入れられなかった1～3次救急の全て受け入れるのか。</p>	<p>○軽症はこれまでどおり、近隣の救急を担当されている当番医や輪番病院で受け入れていただきたい。</p> <p>○<u>2～3次救急に相当するケースで、他の医療機関で受け入れが困難な場合、新病院がバックアップして患者を受け入れる体制を構築し、地域全体で断らない救急を実現したい。</u></p> <p>○小児救急については、小児科医や専門看護師などの数が十分でないため、これらの医療スタッフを新病院に集約し、<u>1～3次の小児救急患者を受け入れる体制を構築する。</u></p>
<p>医療人材を育成・循環しているが、循環とは派遣のことか。</p> <p>広島県東部地域にも医療人材を派遣するのか。</p>	<p>○<u>循環とは、大学病院並びに関連病院間の医療人材の交流や診療支援を指す。</u></p> <p>○広島県東部においても、岡山大学の支援を仰ぎながら医療人材の交流が進むよう、引き続き取り組んでいく。</p>
<p>都市部と異なり、人口の少ない地域で大規模事故があった場合は、大きな病院に運ばれるまでに時間がかかるのではないか。</p>	<p>○<u>病院にたどり着く時間だけでなく、いかに早いタイミングで適切な治療を受けられるかが重要。</u></p> <p>○「救命の連鎖」という言葉があり、予防できるものは予防することが大切である。それでも心肺停止が起こることはあり、その際に現場でしかできないことがある。近くで自分の家族が倒れた、というケースなどを想定して、そのときどう行動すべきか、ということをお県の皆様にも日々考えていただきたい。</p>
<p>#7119（救急安心センター）などについて、行政やマスコミが積極的に広報して、市民が理解しないといけないのではないか。</p> <p>現状の救急に関する認知度についてはどう考えるか。</p>	<p>○#7119については、特に搬送が増えている高齢者に対する周知が不十分であるため、各市町共通のロゴを作成し、令和6年度に広島市内で郵便ポストにステッカーを貼る等の認知度向上のための取組を始める。その他、<u>様々な機会を捉えて、救急車の適正利用の周知を図っていく。</u></p> <p>○現場感覚では、認知度は上がってきているとの印象を持っているが、県民の皆様にも、自分でも調べる、という姿勢を持っていただきたい。</p>
<p>重症者ではない方が救急車に乗った場合でも、救急の先生方が対応されるのか。全てに対応するのは大変ではないか。</p>	<p>○<u>救急医は、初期診療のプロフェッショナルであるため、重症度に関わらず対応することが望ましいが、現状は救急医自体が少なく全国的にも広島県でも足りておらず、他の診療科の医師に協力を依頼している状況にある。</u></p>

エ 評価委員会

地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会条例（令和6年広島県条例第1号）第3条第2項の規定に基づき、評価委員会の委員を任命するにあたり、次のとおり候補者を選定した。

(ア) 評価委員会の業務

次の事項について、県知事へ意見を述べること。

- ・ 中期目標の作成・変更
- ・ 中期計画の認可・変更
- ・ 各事業年度の業務実績の評価 など

(イ) 考え方

法人の業務実績等の評価にあたっては、県の医療政策を踏まえつつ、医療・経営・経理・財務・法律などの専門性及び実践的な知見を基に、客観的かつ中立公平に行われる必要があることから、委員の構成については、「行政」、「医療」、「医療経営」、「法律」の分野に精通した有識者で構成

(ウ) 候補者（案）

（敬称略、50音順）

氏名	所属・職名等	分野
枝広 直幹 （えだひろ なおき）	福山市長	行政
大石 佳能子 （おおいし かのこ）	株式会社メディヴァ代表取締役社長	医療経営
木倉 敬之 （きくら よしゆき）	全国健康保険協会理事	行政
平谷 優子 （ひらたに ゆうこ）	ひかり総合法律事務所弁護士	法律
松田 淳 （まつだ じゅん）	KPMGヘルスケアジャパン株式会社 代表取締役	医療経営
松村 誠 （まつむら まこと）	広島県医師会会長	医療
山本 恭子 （やまもと きょうこ）	広島県看護協会会長	医療

(エ) 任期

令和6年6月1日 ～ 令和8年5月31日（2年間）

(3) 予算額（一部国庫）

令和6年度当初予算額 1,218,107千円（債務負担行為額 19,919,000千円）

(4) その他（広島県HP掲載）

ア 高度医療・人材育成拠点の整備について

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten.html>

（※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載）



イ 過去の高度医療・人材育成拠点に関する県民公開セミナー（新病院セミナー）について

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten-seminar-.html>

（※県民公開セミナーにおける基調講演や県の基本計画に関する説明動画、県民からの質疑応答などを掲載）



ウ 医療機関再編の影響が予想される地域の医療体制について

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/saiheniryoutaisei.html>

（※地域懇話会における医療機関再編による影響の説明資料や議事概要などを掲載）

